

ZENSATO Monthly

全里マンスリー

2020年10月号 VOL.130.
2020年10月10日(土)(公財)全国里親会

◆全国里親会◆

各里親会への助成のお知らせ

全国里親会より地域の里親会活動の支援を目的に、都道府県市里親会に対し里親会活動推進事業費として1万円の支援をさせていただくことになりました。各里親会へ9月28日付書面にてご案内しています。

「里親月間」キャンペーン用のぼりができました

10月は里親月間で、コロナ禍にもかかわらず、各地でさまざまな催事が行われています。



全国里親会では、里親月間キャンペーンとして、のぼり2種類(No.17 No.15 全10本)を作成しました。キャンペーンなどでご使用になる場合は、全国里親会事務局までお問合せください。送料については各里親会でご負担願います。

◆厚労省関連◆

厚生労働省の予算概算要求が発表されました

厚生労働省(令和3年度)の予算概算要求が発表されました。総予算額は約33兆円。私たちの分野である「子ども家庭局家庭福祉課・虐待防止対策推進室」の予算は1,734億円。今年度が1,731億円で、今年度並みといえます。概要としては、「児童相談所や市区町村の子ども家庭支援体制の強化、特別養子縁組・里親養育への支援の拡充、児童養護施設等の小規模かつ地域分散化の更なる推進など“児童虐待防止対策の抜本的強化について”(平成31年3月19日関係閣僚会議決定)等を踏まえた児童虐待防止対策の総合的・抜本的強化策を迅速かつ強力に推進する」としています。

関連する予算項目としては、①児童入所施設措置費等 1,355億円 ②里親養育包括支援(フォスティング)職員研修事業 0.3億円 ③養子縁組民間あっせん機関職員研修事業 0.2億円 ④里親制度等広報啓発事業 2.1億円 ⑤社会的養護出身者ネットワーク形成事業 0.1億円となっています。今年度予算と比較すると、多くが今年度並みですが、里親制度等広報啓発事業については1.3億円の増加となっています。

厚生労働省人事

厚生労働省は8月7日に人事を発表しました。子ども家庭局家庭福祉課長に中野孝浩(なかのたかひろ)氏が就任。

なお菅首相の元、組閣で田村憲久(たむらのひびさ)氏が厚生労働大臣に就任。

厚生労働省がタイアップ—映画「朝が来る」

厚生労働省は、「特別養子縁組制度」や「里親制度」を効果的に周知するために、映画「朝が来る」(2020年10月23日公開)とタイアップしています。ホームページをご参照ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou_kouhou/kouhou_u_shuppan/tieup/asagakuru.html

監督:河瀬直美 映画あらすじ:一度は子どもをもつことを諦めたが「特別養子縁組」という制度を知り男の子を迎え入れる夫婦と、実の子を育てることができなかった少女の様子を描いた作品。

子ども分野で新しい国家資格

厚生労働省は9月7日、第5回会合を都内で開き、児童福祉司などを対象とした新たな資格創設を盛り込んだ「中間整理案」を発表しました。深刻な児童虐待などに対応するため、専門的な資格を持った児童福祉司を増やし、児童相談所の機能強化を図る狙いからです。「子ども家庭福祉に関し専門的な知識・技術を必要とする支援を行う者の資格の在り方その他資質の向上策に関するワーキンググループ」による案。

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-kodomo_554389_00011.html

◆その他◆

日本財団から子ども基本法に関する提言発表

9月28日に、日本財団より子どもの権利を守るための法律「子ども基本法」制定を目指す提言書が発表されました。子どもの権利を守るために必要な(1)子ども基本法の制定(2)「子ども総合政策本部(仮称)」を設置と国による年間計画の策定(3)子どもの意見を代弁する子どもコミッションの設置などが盛り込まれています。今後は提言書を基に、様々な働きかけを展開する予定とのことです。

全国里親会事務局人事について

事務局業務をより充実するために10月1日付で常務理事として坪井ひとし氏を起用することとなりました。吉田啓悦事務局長は体調不良により、加療することになり、9月30日付で退職となりました。

本の紹介

■『里親になりませんか—子どもを救う制度と周辺知識』(日本法令・定価2,000円+税)。著者は吉田菜穂子(福岡県里親会長・全国里親会評議員)。

■「子どもの心の声を聴く:子どもアドボカシー入門」(岩波書店・定価520円+税) 著者:堀正嗣(熊本学園大学社会福祉学部教授)